



熱中症を防ぐために

熱中症の発生は7~8月がピークになります。
熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。

熱中症とは...

高温多湿な環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調整機能がうまく働かないことにより、体内に熱がたまり、筋肉痛や大量の発汗、さらには吐き気や倦怠感などの症状が現れ、重症になると意識障害などが起こります。



急に暑くなった日は特に注意！

気温や湿度が高いなどの環境条件と、体調が良くない、暑さに体が慣れていないなどの個人の体調による影響とが組み合わさることにより、熱中症の発生が高まります。

屋外で活動しているときだけでなく、就寝中など室内で熱中症を発症し、救急搬送されたり、不幸にも亡くなられたりする事例が報告されています。

室内にいるときも注意が必要！



熱中症の予防法

熱中症の予防には、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です！！

水分・塩分補給



- こまめな水分・塩分の補給
- ※ 高齢者、障害児・障害者の方は、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分補給を！

体調に合わせた取り組み



- こまめな体温測定
(特に体温調整が十分でない高齢者、障害児・障害者、子ども)
- 通気性の良い、吸湿・速乾の衣服着用
- 保冷剤、氷、冷たいタオルなどによる体の冷却

熱中症になりにくい室内環境

- 扇風機やエアコンを使った温度調整
- 室温が上がりにくい環境の確保
(こまめな換気、遮光カーテン、すだれ、打ち水 等)
- こまめな室温確認



無理をしてエアコンを使わないと体調を崩すことがあります！

外出時の準備

- 日傘や帽子の着用
- 日陰の利用、こまめな休憩
- 通気性の良い、吸湿・速乾の衣服着用



注意していただきたいこと・お願いしたいこと

① 暑さの感じ方は人によって異なります！

人間の体調や暑さに対する慣れなどが影響して、暑さに対する抵抗力（感受性）は個人によって異なります。

自分の体調の変化に気をつけ、暑さの抵抗力に合わせて、万全の予防を心がけましょう。



② 高齢者の方は特に注意が必要です！

熱中症患者のおよそ半数は高齢者（65歳以上）です。高齢者は暑さや水分不足に対する感覚機能が低下しており、暑さに対する体の調整機能も低下しています。

のどの渇きを感じていなくてもこまめに水分補給をしたり、暑さを感じなくても扇風機やエアコンを使って温度調整をするように心がけましょう。

③ まわりが協力して、熱中症予防を呼びかけ合うことが大切です！

一人ひとりが周囲の人に気を配り、熱中症の予防を呼びかけ合うことで、熱中症の発生を防ぐことができます。

特に、熱中症にかかりやすい高齢者、障害児・障害者や子どもについては、周囲が協力して注意深く見守るようにしましょう。

④ 節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようご注意ください！

今年は、国民の皆さまに節電の取り組みをお願いしていますが、節電を意識しすぎるあまり、健康を害することのないようご注意ください。

気温が高い日や湿度の高い日には、決して無理な節電はせず、適度に扇風機やエアコンを使用するようにしましょう。

熱中症になった時の処置は・・・

1. 涼しい場所へ避難させる
2. 衣服を脱がせ、身体を冷やす
3. 水分・塩分を補給する



自力で水を飲めない、意識がない場合は、直ちに救急隊を要請しましょう！

熱中症情報に関するホームページ

○熱中症環境保健マニュアル、熱中症予防リーフレット・カード、暑さ指数（WBGT）予報ほか

- ◆環境省 熱中症予防情報サイト <https://www.wbgt.env.go.jp/>
- ◆国立環境研究所 熱中症予防情報 <http://www.nies.go.jp/health/HeatStroke/index.html>

○天気予報、気象情報、異常天候早期警戒情報ほか

- ◆気象庁 熱中症から身を守るために <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kurashi/netsu.html>
- 早期天候情報 <http://www.jma.go.jp/jp/soukei/>

○職場における熱中症予防対策

- ◆厚生労働省 職場における労働衛生対策 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei02.html>

